連続セミナー：気候危機と鉱山開発ー望まぬ開発に抗う人びと

オンライン

7月3日(木)
20:00～21:30

地球の裏側で起きている リチウム開発

アルゼンチンからの訴え

©FARN

本日の流れ

・開催趣旨
　田中滋　＜アジア太平洋資料センター（PARC）＞

・オラロス塩湖、リチウム資源開発事業の概要
　佐藤万優子　＜国際環境NGO FoE Japan＞

・アルゼンチンのリチウム採掘の概要と問題点（逐次通訳あり）
　Laura Castillo氏　＜環境天然資源財団（FARN）＞

・日本の官民が関与するオラロス塩湖の事例（逐次通訳あり）
　Melisa Argento氏　＜アルゼンチン環境弁護士協会(AAdeAA)＞

・質疑応答

開催趣旨

気候変動は肌で感じられる程に進行

豪雨・干ばつ・山火事などの気候関連災害も頻発

対策は急がれるが、「脱炭素」のためになら何をしてもいいのか？

クリーンなイメージを演出する電気自動車や太陽光・風力発電にも環境負荷が存在し、尊厳を踏みにじられる民衆がいることを日本の消費者にも知っていただき、ともに行動するための学びの場として連続セミナーを提供

これまでの記録は主催団体のウェブサイトへ
→https://foejapan.org/
→https://parc-jp.org/

主催団体のこれまでの関係する取り組み

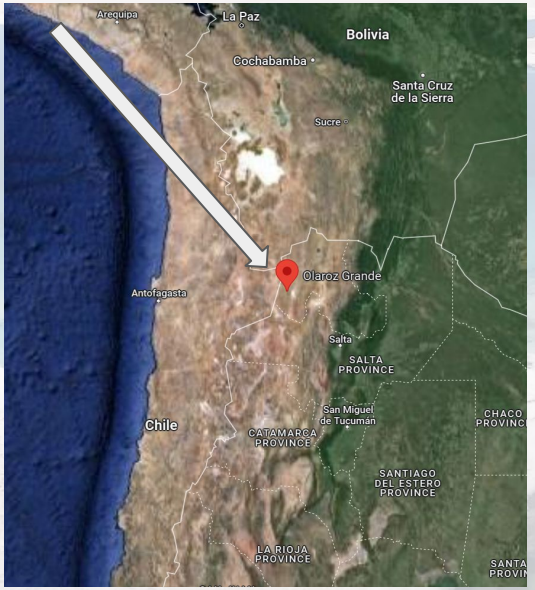
FoE Japan：15年以上フィリピンのリオツバ・ニッケル鉱山付近で水質調査を実施。現地企業が有効な六価クロム汚染軽減策をとっていないことを証明するとともに声を上げたいと願う住民の支援を継続
現在はインドネシアのニッケル鉱山をめぐる調査とアドボカシーも展開

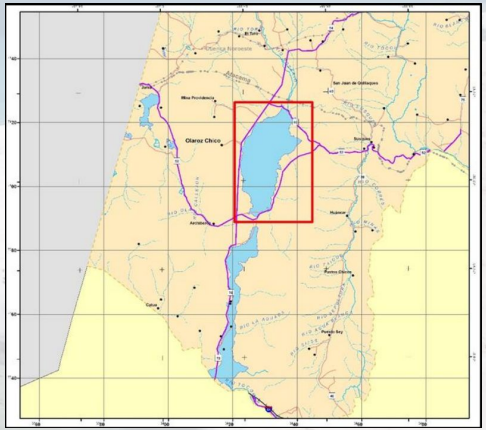
PARC：2014年から鉱物サプライチェーンと日本の電子機器産業のサプライチェーン管理体制の問題を指摘し、教材用DVDなどを共同制作

両団体のアドボカシーの経験として問題を鉱山一つの固有の問題に矮小化してはならない問題だと認識。2024年にフィジー・ナモシ銅鉱山の調査を実施、2025年度はリチウム採掘の問題を調査予定

皆さんへの情報提供もバッテリサプライチェーンで通じる多様な鉱物・現場へと今後も展開していく予定

オラロス塩湖・リチウム資源開発事業の概要





アルゼンチン共和国北西部プーナ地方
フフイ州オラロス塩湖

「リチウム三角地帯」

事業概要

事業実施者

サレス・デ・フフイ
Sales de Jujuy S.A. (SDJ)

英,豪　Rio Tinto 66.5%	**豊田通商** **25%**	フフイ州鉱業公社（JEMSE） 8.5%

融資機関：**みずほ銀行**
保険機関：**日本貿易保険（NEXI）**
保証機関、地質構造調査助成：**エネルギー・金属鉱物資源機構（ JOGMEC）**

採掘 → 加工 → 調達・販売

採掘	加工	調達・販売
豊田通商	**豊通リチウム**	**豊通マテリアル**
アルゼンチン オラロス塩湖	福島県双葉郡楢葉町	日本国内、韓国などアジア圏へ輸出

主な出来事

2008～2010年	豪Orocobre、JOGMECが埋蔵鉱量、インフラ整備調査など
2012年	豊田通商が事業権益25%取得
2012年末	炭酸リチウム生産プラント建設開始（フェーズ 1）
2014年末	炭酸リチウム生産開始
2015年	炭酸リチウム商業販売開始
2018年	豊田通商が豊通リチウムを設立
2019年	拡張生産（フェーズ２）建設開始
2021年	第3次拡張（フェーズ３）のためのScoping Study開始
2023年	フェーズ2の建設完了、生産開始
2025年	英・豪Rio Tintoが買収し株主に

事業に係る主な問題点

■先住民族、地域住民への影響（人権侵害）

■水資源、人びとや生態系への影響

■地域住民の分断、文化や自然景観への影響

■「緑の植民地主義」の構造